



Japan Society of Internship  
and Work Integrated Learning

# 日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

## 2016 年度 NO.2

### 目次

- ・第 18 回大会（於：北海道）準備状況報告
- ・理事会報告
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・企画研究 WG 報告
- ・楨本記念賞 WG 報告
- ・本部支部連絡会報告
- ・2017 年度高良記念研究助成募集
- ・選挙管理委員会からのお知らせ
- ・支部活動報告
- ・《追悼》金田昌司先生を偲んで
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報

### 第 18 回大会（北海道）準備状況報告

2017 年 8 月 31 日（木）～9 月 1 日（金）の 2 日間、北海道・札幌市の札幌国際大学／札幌国際大学短期大学部におきまして、日本インターンシップ学会第 18 回大会を開催いたします。

今大会のテーマは「社会から見たインターンシップ—その役割の変化」です。1997 年に当時の文部省・通産省・厚生省がとりまとめた、インターンシップ推進に向けた「基本的考え方」、いわゆる三省合意から今年で 20 年。新しい教育機会、職業体験として始まったインターンシップも、現在では社会全体に浸透しつつある取組となり、企業・学生への認知も進んでいるといえます。

その一方で、インターンシップの役割は大きく変化を見せています。昨年の大会でも「多様性」がテーマとなりましたように、基本的考え方で謳われている職業体験だけにとどまらず、雇用や産官学連携といった社会的な取組としての役割が期待されるようになってきました。そこで、今大会ではインターンシップの社会における役割について、改めて検討を加え、インターンシップに求められている成果や、今後の展望について参加者のみなさまとの議論の場となることを期待しております。

今大会のプログラムは「社会との連携」を重視し、北海道という地域特性にもつながる事例を企画しております。基調講演は、北海道を代表するコンビニエンスストアであるセイコーマートを運営する株式会社セコマの代表取締役社長・丸谷智保様をお招きし、若手人材の育成や教育機関に期待することをご講演いただきます。セコマは人口過疎地域を多く抱える北海道において、最多のコンビニエンスストア

出店数を誇り、道内 179 市町村のうち、175 市町村に出店（グループ全体）するなど、地域密着型企業として事業展開されています。地域で活躍できる人材の育成について、考える機会となれば幸いです。



続くシンポジウムは「地域活性化に関わるインターンシップ」と題し、さまざまな地域で行われているインターンシップ事例を、企業・団体の受入担当者、また派遣する側の大学担当者から報告していただき、得られる効果や課題についてフロア参加者を交えてディスカッションを行います。インターンシップの経験は就業だけでなく、地域社会との交流にも大きな役割を果たしています。受入企業・団体が学生に期待すること、また派遣学生が地域に出向いてインターンシップに参加する理由を、事例を通して検討して参ります。

二日目には会員による自由研究発表を予定しております。現在、研究発表を大会 Web サイトにて募集しておりますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

その他、高良記念研究助成報告や懇親会など、恒例のイベントも計画しております。

残暑厳しいであろう8月下旬ですが、北海道は暑さも引いて爽やかな時期となります。今回はスケジュールの関係で平日の開催となりましたが、ぜひ気候の良いこの時期に北海道をお楽しみいただければ、と存じます。大会実行委員一同、みなさまのお越しを心よりお待ち申し上げております。

#### 【大会 Web サイト】

<http://sites.google.com/a/ts.siu.ac.jp/jsi2017/>

(第18回大会実行委員長 小林純・札幌国際大学短期大学部)

\*\*\*\*\*

## 理事会報告

2016年度第3回理事会 (2016年12月10日(土)、於：九州大学 箱崎キャンパス)

### (1)入退会の申請について

入退会の申請者について、個人会員7名が承認された。法人会員3団体の申請があり、1団体が会議で承認され、その後申請理由書等の確認の上2団体が承認された。

### (2)第18回大会開催について

小林実行委員長より札幌国際大学・短期大学部で開催することで調整しており、大会の日程も調整中である。北海道支部は会員数が限られているため全員で協力して全国大会を成功させたいと考えているとの報告があった。

### (3)理事・会長選挙について

吉本会長より選挙については、選挙管理委員として、新谷会員、高橋秀会員、古田会員を選出することが提案され承認された。

### (4)支部名称の変更について

折戸関東支部長より、関東支部の所属エリアが東北まで広がっているため支部名を東日本支部と名称変更したいとの提案があり、承認された。

### (5)事務局報告

会員名簿は、紙媒体で名前と所属のみを記載したものを準備している。会員だけがアクセスできるウェブ公開も検討中である。また、日本インターンシップ学会は、教育学・心理学分野として、日本学術会議に登録しており、年報の第5号から第15号までが、CiNii(サイニィ)で全文が読めるようになっているが、それ以降が掲載されていないので、公開できる形にするとよいのではないかと、という意見があった。

2016年度第4回理事会 (2017年3月4日(土)、於：近畿大学東京センター)

### (1)入退会の申請について

入退会の申請者について、個人会員9名が承認された。

### (2)第18回大会開催について

小林実行委員長より、大会開催計画について説明があった。2017年8月26日(土)・27日(日)(その後変更：8月31日(木)・9月1日(金))に、札幌国際大学短期大学部で開催されることを確認した。本大会のテーマは、「社会から見たインターンシップ—インターンシップの役割の変化—」とし、インターンシップの再定義をしたいとの提案があった。その他基調講演・シンポジウムなどの企画を予定していることが報告された。

### (3)2017年、2018年新理事・新会長選挙について

選挙管理委員会委員長の高橋理事が欠席のため、事務局より報告があった。選挙の投票締め切りは、5月10日(水)とし、選挙管理委員により開票作業を行うことが報告された。

### (4)事務局報告

会員名簿を作成した。個人情報に配慮したため、名前と所属のみの記載となっている。

2017年度高良記念助成募集については、締め切りを6月9日(金)必着とする。また岸本委員の後任を決定し、審査委員長の選出を行う予定であることが報告された。

各ワーキンググループ・委員会の報告については、各報告を参照されたい。(事務局)

## 年報編集委員会報告

年報編集委員会では、年報編集委員、査読をお願いした会員諸氏、第17回大会実行委員会などの協力を得て、現在、年報第20号の編集作業を進めています。

本年1月20日を締め切りとして第20号への投稿を募集しましたが、期日までに研究論文(論文及び研究ノート)として、論文5編、研究ノート1編、資料1編の計7編の意欲的な投稿が寄せられました。

その後、各投稿に対して、編集委員及び編集委員以外の会員(各投稿につき3名)に審査をお願いし、それをもとに3月18日に第1回の編集委員会を開催いたしました。

今後は、6月11日に第2回編集委員会を開催し、投稿者の修正原稿を審査し、掲載の可否を決定いた

します。また、資料の部についても掲載するものを決定する予定です。

また、今号から、会員への情報提供を充実するという観点から、各大学での取組状況やインターンシップに関連する書籍の紹介などを積極的に掲載する予定です。

最終原稿の提出、印刷・製本を経て、本年 11 月頃に第 20 号を会員の皆さまにお届けできるよう作業を進めてまいります。

(年報編集委員会委員長 亀野淳・北海道大学)

## 広報委員会報告

本学会に寄せられました研究会やセミナー開催案内および教員公募等情報は、学会ウェブサイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。関連情報がありましたら広報委員会までお寄せください (jsi.prc@gmail.com)。最終的な掲載の可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承ください。

### メルマガ配信先アドレスの登録・更新について

新たにメルマガ配信を希望される方は送信先アドレスをご登録ください。また、このところ未達アドレスも増えていますので、アドレスを変更された際には更新をお願いいたします。アドレスの登録・変更は、下記 URL にアクセスし手続きをお願いいたします。

URL:<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JSI>

(広報委員会委員長 和田佳子・札幌大谷大学)

## 企画研究 WG 報告

学術研究・論文作成セミナー（第 4 回）を開催しました

九州支部のご尽力で、2016 年 12 月 10 日（土）14:00～16:30 に、セミナー「日々の実践からの研究企画と論文作成に向けて」を九州大学箱崎キャンパス（福岡県）で開催しました。これは、九州支部と年報編集委員会と当 WG の共催で実現したものです。

一連のセミナーは、東京（2012 年 12 月）を皮切りに、札幌（2014 年 12 月）、京都（2016 年 8 月）で開催されてきました。今回の福岡は、4 支部目の開催となります。

まず、当 WG からセミナーの趣旨を説明した後、見館好隆会員（北九州市立大学）が「日々の実践をどう研究論文にするか」をテーマに、M-GTA などの質的研究法の手法も含めて約 1 時間、論文作成のノ

ウハウを話してくださいました。次いで、亀野淳会員（年報編集委員会委員長・北海道大学）が『インターンシップ研究年報』への投稿と査読の実際」をテーマに、かなり踏み込んだ実情を話してくださいました。いずれも、実践的な話が中心でしたので、参加者から好評を博すことができました。また、講師とフロアとの間で真摯なディスカッションが行われ、活発な意見交換の場となりました。

今回のセミナーも好評だったうえ、初回から数えて 4 年以上経過していますので、当 WG では、二巡目のセミナーの開催も視野に入れて、今後の展開を検討しているところです。

(企画研究 WG 委員長 安孫子勇一・近畿大学)

## 楨本記念賞 WG 報告

本 WG は、大阪経済大学の楨本名誉教授が理想とされた秀逸なインターンシップの事例を探し出そうという構想から、初代の加藤敏明委員長、第 2 代の田中宣秀委員長のもとで具体的な検討が進められ、楨本記念賞として選定する制度として実現しました。

そして、2015 年に近畿大学で行われた第 16 回学会大会にて「最も秀逸な事例」「秀逸な事例」が表彰されました。その後、同 WG では、制度のあり方や運用、ルール等を見直し、新たな表彰制度として運用しております。2 年に 1 回の選定となったため、今年度の第 18 回学会大会で第 2 回の表彰を実施することになります。

評価項目としては、制度・組織、運用、内容・シラバス、期間、受入先との連携、醸成される力、受入先からの評価、受講生の評価です。第 16 回大会以降、各支部研究会等で発表された事例の中で「秀逸」と考えられる事例を 6 月 10 日（土）に関西で開催される理事会にて各支部 4 件推薦いただきます。その後 WG 内での選考を経て 8 月 31 日に予定されている第 18 回学会大会にて表彰式を実施する予定です。

多様なインターンシップが実施されるようになってきた今、改めて「秀逸」なインターンシップとは何かについて考える機会になればと考えています。

(楨本記念賞 WG 委員長 眞鍋和博・北九州市立大学)

## 本部支部連絡会報告

各支部研究会等の開催時期・日時の掌握と各支部への連絡調整・情報共有を目的として、本支部連絡

会が発足いたしました。支部での研究会情報を各支部長へ連絡し、調整を行うこととなっています。各支部での予定・研究会日程の調整がまだうまく運用できていませんが、今後、円滑な運用に努めてまいります。

(本部支部連絡会委員長 岡本信弘・博多工業高等学校)

## 2017 年度 (第 10 回) 高良記念研究助成募集について

「高良記念研究助成」制度は、高良和武名誉会長から学会へご寄付いただいた基金をもとに、2007 年度よりインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行うものです。

今回は山口圭介理事を審査委員長として委員会を立ち上げ、募集要項、申請書式等、申請に係る書類はすでに学会ホームページにも掲載し、各会員にも郵送で送付しておりますが、この度、2017 年度の研究助成の募集を行います。会員の皆様には是非ご応募いただきますようお願いいたします。

申込締切り後、採否を審査、8 月の理事会で決定し、研究助成対象者は大会の総会席上にて発表する予定です。助成期間は 1 年、研究成果は次年度の大会にて発表いただき、さらに研究年報に助成研究として掲載されます。国内外における多様な視点からのインターンシップ研究、その実践活動の展開に関する研究など幅広い研究についての応募をお待ちしております。

※申込締切：2017 年 6 月 9 日 (金) 必着

(事務局長 岡本信弘・博多工業高等学校)

## 支部活動報告

### 【北海道支部】

北海道支部では、2017 年 3 月 25 日 (日) に、2016 年度北海道支部総会および 2016 年度研究会を、札幌国際大学経済センターキャンパスにて開催いたしました。年度末の忙しい時期ながら 11 名の会員の参加がありました。

支部総会では、2015 年度の活動報告や決算、次期 2017 年度の活動方針と予算案に関する討議が行われ承認されました。2016 年度の活動方針と予算案については、昨年度の総会にて承認されていたため、活動中間報告と予算の使用状況報告が行われました。

続いて開催した研究会では、2 件の研究発表があり、フロア参加者とのディスカッションや情報交換が行われました。発表者と題目については、以下の通りです。

①亀野淳会員・川上あき会員「経済同友会と連携した低学年長期インターンシップ—北海道大学の事例—」

②川上あき会員「公募型と大学経由型インターンシップの比較考察を通じた今後のインターンシップの可能性」【高良記念助成研究中間報告】

発表された 2 件の報告に対してフロアからも多くの質問が出され、活発な議論が交わされました。

その後、第 18 回大会でのシンポジウムテーマである、地域活性化に関わるインターンシップについての情報共有を図るため、ディスカッションを行いました。地域活性化とインターンシップのつながりや効果など、目に見える形での成果が話題となりやすい一方で、都市部とは対照的な地方部での特色あるインターンシップにも興味深い事例が多く挙げられ、シンポジウムでの議論が期待されます。

北海道支部は例年 2 回の研究会を実施しておりますが、今年度は全国大会が札幌市で開催されるため、研究会はこの 3 月のみとなりました。8 月 31 日・9 月 1 日に開催される第 18 回大会には、北海道支部も協力をして参ります。皆さまのご参加をお待ちしております。

(北海道支部広報担当 小林純・札幌国際大学短期大学部)

### 【東日本支部】(旧 関東支部)

2017 年 3 月 5 日 (日) に玉川大学 大学研究室棟 107 教室において、2016 年度東日本支部第 3 回研究会が開催された。冒頭に折戸晴雄支部長より挨拶があり、昨年 12 月に行われた日本インターンシップ学会理事会において「関東支部」の名称を「東日本支部」に変更することが承認されたが、本日 3 月 5 日に開催された支部役員会をもって、正式に東日本支部としての活動を開始したことの報告がなされた。

基調講演では、山梨英和大学の三浦一秋先生より「インターンシップの教育効果について」と題して、近年の大学におけるインターンシップ教育の概況を踏まえたうえで、同大学での取り組み事例から得られた分析結果が示された。教育効果測定にあたっては、人的資本論の考え方にに基づき、短期インターンシップを通じて学生の「基礎力」と「学業への影響」、「就職率・満足度の向上」の各々においてポジティブな影響がでることを仮説として検証を行った。そ

の結果、「基礎力」のうち協働力や統率力といった対人基礎力および自信創出力を含む対自己基礎力の向上が認められた。また「学業」においては、インターンシップに参加した学生のほうが参加しない学生に比べて3年後期および4年前期のGPAが高い傾向にあることが認められたが、直接的な影響というよりも学習意欲を高める効果が指摘された。最後に「就職率・満足度」については、就職において重要となる対人基礎力および専門性の必要性を学生自らが感じ、その後の就職活動等に活かされることが指摘された。

次に、職業能力開発総合大学校准教授の新目真紀先生より「実践的事例を踏まえたキャリア形成としてのインターンシップの役割」について講演がなされた。1900年頃からのキャリア理論の変遷を総括したうえで、インターンシップの効果はキャリア・アダプタビリティの4因子（関心、好奇心、統制、自信）によって評価されるべきであるとする理論が紹介された。青山学院大学 ヒューマン・イノベーション研究センターの事例では、経営学部生を対象にインストラクティブ・デザイン手法によりインターンシッププログラムがデザインされ、学生の注意喚起、関連性、自信、満足感の向上が確認されたとの報告があった。また職業能力開発総合大学校での事例では、インターンシップを通じて態度要因および認知的要因の向上が認められ、若年層のキャリア形成を促進する機会になりえるとの見解が示された。

最後に、この度私ども東日本支部は、これまでの支部活動の成果として支部会員の皆様のご尽力を得て、2015年度刊行「インターンシップ入門」の実践版として「インターンシップ実践ガイド」を刊行いたしました。本書は、企業・公官庁・学校・諸団体などの幅広い場において展開される細分化されたインターンシップの動向を横断的かつ包括的に捉えたもので、各大学の取り組み及び企業等の受入事例を示すほか、インターンシップに関する基本用語や関連する研究分野の用語 200語を解説しておりますので、ご高覧くださいと幸いです。

(東日本支部事務局長 根木良友・玉川大学)

## 【関西支部】

関西支部は、2月16日(木)にキャンパスプラザ京都にて、支部運営委員会を開催しました。まず、昨年8月10日にキャンパスプラザ京都で第11回支部研究会を開催したこと、同日に企画研究WGと年報編集委員会との共催でセミナー「実践を学術研

究・論文作成に結びつけるために」を開いたことに関連して、運営委員への謝辞がありました。

また、「インターンシップ研究年報」第19号に掲載された「大会の部」(一昨年9月に近畿大学で開催された第16回大会の記録)について、「基調報告会」と「シンポジウム」に分けて100部ずつ抜き刷りを印刷し、それぞれの発表者(非会員のため、学会誌に掲載されたことをご存知ない方も少なくありません)や関西支部関係者に配ることも了承されました。その後、発表者(基調報告会6人、シンポジウム5人)等には、完成した抜き刷りを送付しています。

さらに、第12回支部研究会を6月9日(金)の夕方に開催すること、報告者を木村亮介会員(和歌山大学)と岩井貴美会員(近畿大学・院)とすることも決定しました。その後、発表者のテーマが「インターンシップ実践例と質を向上するための仕組みづくり～学生向け・企業向けのワークシートの開発～」(和歌山大学の事例、木村会員)と「低学年インターンシップ教育の取り組み評価～近畿大学を事例として～」(岩井会員)に決まり、会場をキャンパスポート大阪(「大学コンソーシアム大阪」の活動の場、JR大阪駅から5分程度)とすることも確定しました。この研究会の案内については、4月下旬から学会のホームページに掲載されています。できれば事前にご連絡いただいた上で、多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

このほか、関西支部運営委員会では、関西支部の役員見直しも議論されました。その結果、本年4月から廣瀬幸弘会員(立命館大学)が副支部長から支部長に昇格し、安孫子勇一会員(近畿大学、前支部長)が副支部長・会計となっており、松高政会員(京都産業大学、副支部長)とともに、新支部長を支えることとなりました。全国屈指の大学集積地である京都にある大学で、次の関西支部支援の大会が開催できますよう、新支部長の下、努力していきたいと考えております。

(関西支部副支部長 安孫子勇一・近畿大学)

## 【九州支部】

企画研究WG・年報編集委員会共催セミナー(九州支部第18回研究会)を開催

九州支部では、企画研究WGと年報編集委員会との共催による『日々の実践に基づいた研究企画と論文作成に向けて』のセミナーを2016年12月10日(土)九州大学箱崎キャンパスで開催しました。

最初に安孫子勇一会員(企画研究WG委員長・近畿大学)から本セミナーの趣旨説明があり、続いて「日々の実践をどう研究論文にするか」というテ

ーマについてメインレクチャーである見館好隆会員（北九州市立大学）の講演が行われました。授業やインターンシップ、PBL、サービスマーケティングなどの実践をどのように研究論文にしていけるか、M-GTA などによる質的研究法を中心にケーススタディ方式で進められました。参加者の多くが日々実践を行っている教育機関や産業界、仲介組織の関係者ということもあり、ケースが紹介されるたびに質疑応答が飛び交いました。参加者からは実践に対する想いをどのように研究という形にすれば、また実践を相対化することの難しさなどについても議論が展開されました。

最後に亀野淳会員（年報編集委員会委員長・北海道大学）から 4 回目を迎える本セミナーの経緯と『インターンシップ研究年報』への投稿と査読の実際についての説明があり、このセミナーを機に学会発表や年報投稿に挑戦して欲しいというメッセージが伝えられました。九州以外の地域や非会員も含め 26 名の参加があり、セミナー終了後も参加者同士で活発な意見交換が続いていました。

#### 九州支部第 19 回研究会のご案内

来る 6 月 3 日（土）に九州支部第 19 回研究会を開催します。従来の基本的な形態であった 1 週間程度の職場体験インターンシップにとどまらず、1・2 日といった短期のもの、数か月かけて行うものなど、期間の多様がみられます。また、海外インターンシップやまちづくり型のインターンシップ、企業等と協働する PBL 型など形態の多様化、正課内外という教育的位置づけの多様化なども議論されるようになってきました。本研究会では、精力的に展開されている事例をご報告いただき、その成果、課題を共有したいと思います。皆様のご参加をお待ちいたしております。

- ・テーマ：『多様なインターンシップ実践事例共有会』
- ・日時：平成 29 年 6 月 3 日（土）13:30～16:00
- ・会場：九州大学箱崎キャンパス 文・教育・人環研究棟 2 階会議室
- ・プログラム

13:30～15:30 実践報告

- (1)実践型インターンシップ＜西九州大学＞
- (2)通常型インターンシップ＜九州インターンシップ推進協議会＞
- (3)ギャップイヤー型インターンシップ＜長崎短期大学＞
- (4)正課型長期インターンシップ＜北九州市立大学＞

15:30～16:00 総合討論

※詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。  
（九州支部広報担当 江藤智佐子・久留米大学）

\*\*\*\*\*

## 選挙管理委員会からのお知らせ

2017-2018 年度の理事選挙の実施にあたり、理事会より選挙管理委員会委員として新谷康浩会員、古田克利会員、高橋秀幸会員の 3 名が委嘱され、選挙管理委員長に高橋秀幸会員が選任されました。

まず、理事選挙につきましては選挙規定に基づき 2017 年 3 月末時点で 2016 年度会費を納入している個人会員を被選挙人とし 180 名を確定しました。なお、今回の理事選挙では「役員任期・再任回数」の改定にかかる経過規定が 5 名の会員に適用され、被選挙人名簿より外れております。また、選挙人は被選挙人に加え法人・団体会員も加え 227 名で、4 月 12 日付で投票用紙を郵送いたしました。その結果、5 月 10 日の締切り日までに 107 件の投票があり、投票率は 47.1%となりました（前回 53.3%）。その後、5 月 13 日に選挙管理委員会を設置している北海道武蔵女子短期大学 335 研究室にて、古田委員と高橋の 2 名が厳正なる開封・開票作業を行いました。

現在は、新理事候補の会員に承諾確認をしているところです。15 名の新理事候補が確定し次第、新理事候補宛てに会長選挙の投票用紙を郵送する予定です。関係各位におかれましては、会長選挙につきましても引き続きご協力くださいますようお願いいたします。なお、会長選挙は 6 月 23 日に理事選挙と同様、北海道武蔵女子短期大学にて新谷委員と高橋が開票作業を行い、会長を選出する予定です。今後も委員一同、厳正なる選挙を執り行うように責任をもって任務にあたってまいりますので、よろしくお願いいたします。

（選挙管理委員会委員長 高橋秀幸・北海道武蔵女子短期大学）

## 《追悼》 金田昌司先生を偲んで

日本インターンシップ学会の発展に尽力された中央大学名誉教授、金田昌司先生が昨年 12 月 20 日に逝去されましたので会員の皆様にお知らせするとともに、ここに謹んで哀悼の誠を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

金田先生のご専門は経済地理学ですが、わが国に制度としてインターンシップを導入する端緒となる貢献をなさっています。1995 年に中央大学経済学部公共経済学科を立ち上げられた際、高等教育において当時渴望されていた職業マインドの育成を目指し、地方公共団体等におけるインターンシップを正規の学科目として導入されましたこともその一つです。

1996 年末には、産学官の代表者が米国の就職採用

事情やインターンシップの状況を調査するためボストンに参りましたが、事前の勉強会には金田先生をお招きしてビジネス・インターンシップについてご講話を頂戴しました。こうした金田先生のご活躍が著名な物理学者であられた東大名誉教授、高良和武先生の目に留まり、激励のお手紙と著書『新しい大学』をご恵贈いただいた御縁もあって、高良先生に日本インターンシップ学会初代会長の就任をお願いした次第です。金田先生についての有名なエピソードとなっています。改めて心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌

(田中宣秀)

## 事務局からのお知らせ

### 会員情報変更および確認の連絡について

4月以降に新天地で活動を開始された会員も多一事と存じます。学会では2016年6月より学会運営業務の一部を(株)ガリレオへ外部委託すると共に、会員情報管理システム(SOLTI)を導入し会員情報管理をオンライン化しております。会員情報の修正が必要な場合は、学会ホームページにアクセスしていただき、システム(SOLTI:会員情報照会・更新)にログインして修正を行ってください。

会員情報に関しましては下記にお問い合わせください。

(株)ガリレオ学会業務情報化センター内  
日本インターンシップ学会  
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F  
電話: 03-5981-9824

### 会費納入のお願い

FAX: 03-5981-9852

E-mail: g035-support@ml.gakkai.ne.jp

本学会は2011年度より事業年度及び会計年度が7月から翌年6月までに変更になっております。2017年度会費については、別途納入依頼をお送りさせていただきます。

なお、2016年度の会費未納の方は、郵便振替用紙か、ゆうちょ銀行からの振込で、下記振込先までお送りくださいますようお願いいたします(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)。今年度まで銀行振込でも受け付けております。振込手数料は各自でご負担願います。

### 会費納入先

#### 【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

#### 【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座)108419

#### 【銀行振込】

福岡銀行 樋井川支店 (普通)300558

受取人名 日本インターンシップ学会

\*電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガクカイ」と入力ください。

## 日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2016 No. 2

発行日 平成29年5月31日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 和田 佳子

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 岡本 信弘

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-19-1 九州大学人間環境学研究院

九州大学第三段階教育研究センター内

E-mail: jsi-sec@js-internship.jp

電話&FAX: 092-642-4365

Website: <http://www.js-internship.jp/>